

去年秋承殿様所允菊種今已及時可轉懇管理苑圃奉行求數莖今將其名色開具分栽之日幸惟稟明查發爲感

一金菊 老黃 花大而圓 幹長枝勁者爲金菊 一粉紅鶴翎 淡紅而花大者 一鶯黃剪翎 淡

黃花不甚大而色媚者 一白剪絨 花小如錢花瓣細如絨線者

二月二十四日

朱之瑜 白

〔嬉遊笑覽草木〕白石が洞巖に答る書大菊はやり候由當所亦同事に候去々年歟加賀の小瀬復庵の二十韻古風を兩度和し候詩有べく候北地も同風と見え候水戸安積よりも此程菊は作り覺え候など自讃めされ候て御申越候などありかれば當時國中ゆすりて此菊を翫びしなり中略

享保のころ菊合の會はやりたり雅筵醉狂集に近世この花はやりて新花を作り出し菊合の會をしける其會おほくは丸山にて催すなり我やどの東の籬菊とりてはるかにみやる露の丸山艶道通鑑に八重九重のきく合もよりにまかせ好類アヒカキにつれ東山北野につどひて輪をきそひ葩をあらそふ鼻ホッコ冗ホッコきて席に尻のつかぬは今日の花軍の魁け人と見え頭をかたぶけて縁にたばこのむは跡扁の一の筆と推せらるかの舞姫が管咲に針咲つけて裳まで忍び通ひ路あけぼのやこれら菊の名なり菊云々さくら牡丹つばき菊色々の手入して枝をため根をゆがめて狂ひ咲をたのしむは古人のかたわものをとのそしりに落入べしわけて菊そるへの席をみるに一本々々枝たをやかにもせず葩一ツ切生にしたるは美女の獄門みる心地し侍るとあれば近時の朝貌會なごのごとし東京夢華錄九月重陽都下賞菊有數種云々酒家皆以菊花縛成洞戸云々とありこれは大菊にて作るなるべし

〔菊花俗談〕元祿の初つかた都下に菊作る人あり其頃は花の名を賞して翫ぶ者なかりき花の徑